東日本大震災における警察の活動【キッズ版】

平成23年10月　警察庁

東日本大震災で大きな被害が発生しました

亡くなった方：　約1万6千人
行方不明の方：　約4千人
避難している方：　約5万9千人

壊れた建物：　約98万戸
壊れた道路：　約3,600か所
壊れた橋：　約80か所

津波災害

広い範囲にわたって津波が発生しました。数多くの人が亡くなったり行方不明になったりしたほか、ほとんどの建物が流されました。

原子力災害

福島第一原子力発電所の事故により、目に見えない放射線が大量に発生しました。発電所の近くに住んでいた人は、健康への被害を防ぐため、今も遠くで避難生活を送っています。

※　避難者数は内閣府調べ。その他は警察庁調べ。

全国の警察官が応援にかけつけました

岩手県	宮城県	福島県
約1,100人	約3,900人	約3,000人

最も多いときで全国から約4,800人の警察官を派遣

（最も多いときで合計約12,800人の警察官が被災地で活動）

警察の仕事

警察は被災地で次のような活動を行っています。

【1】命の危ない人やけがをしている人を助けること。
【2】海や発電所の近くにいる人を避難させること。
【3】道路を安全でスムーズに通れるようにすること。
【4】行方が分からない人を探すこと。
【5】パトロールを強化して地域の安全を守ること。

【１】命の危ない人やけがをしている人を助けました（救出（きゅうしゅつ）・救助（きゅうじょ））

　警察の仕事は、まず、地震で壊れた建物から出られなくなった人や津波で取り残された人をいち早く助けることです。

　今回の震災で、警察は、命に危険（きけん）が生じた約3,750人の方々を助け出しました。

　壊れた建物から助けを求める16歳少年と80歳女性を発見し、発生から９日ぶりに救助しました。

　津波によって多くの人々が取り残されました。大量の水やがれきが残る中、警察官は、これらの人々を順番に助け出しました。

【２】海の近くにいる人を避難させました（避難誘導）

津波が来る可能性のある所にいる人は、近くの高台にすぐに避難しなければなりません。

警察官は、津波の恐ろしさに負けない気持ちを持って、海の近くにいる人々を避難させました。しかし、その途中で、多くの警察官が津波に飲み込まれて亡くなりました。

海沿いを走る電車に乗っていた警察官２人が、一緒にいた乗客約40人を高台の町役場に避難させました。列車は津波に飲み込まれましたが、乗客は全員無事でした。

近くの川の状況から大きな津波が発生することを予想した警察官が、海の近くにいる人々に対して高台に向かうよう呼びかけ、約150人を無事に避難させました。

【3】道路を安全でスムーズに通れるようにしました（交通規制）

地震によって数多くの道路や信号が壊れました。

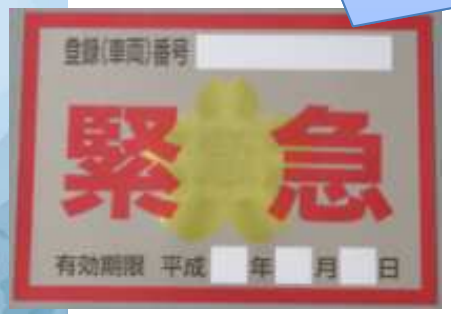
警察は、人を助けたり物を運んだりするために急いでいる車がスムーズに走れる道路（緊急交通路）を決めました。信号が壊れた交差点では、警察官が交通整理を行いました。

1 急いでいる車がスムーズに走れる道路を決めます。

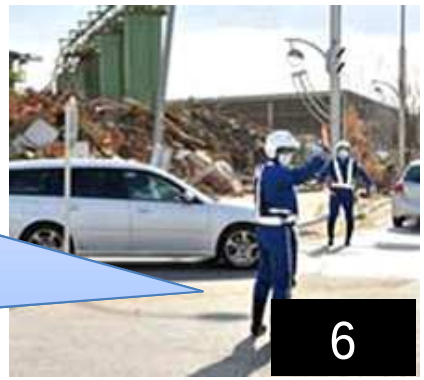
今回の震災では、主に左図の赤線の高速道路を緊急交通路としました。

2 緊急交通路を走る車には、外から見て分かりやすいように、警察から証明書（標章）を渡します。

人を助けたり物を運んだりするために急いでいる車が対象です。



3 信号が壊れたり消えたりした交差点では、警察官が手信号で交通整理を行います。



【4】行方が分からない人々を探しています（捜索（そうさく）・身元確認（みもとかくにん））

東北地方では、いまだに約4千人の方々の行方が分かっていません。

大量のがれきや水が残る中、警察は現在も行方不明の方々を必死に探しています。御遺体（ごいたい）が発見された場合には、その人の身元をていねいに調べます。

1 9月30日までに約1万6千体の御遺体を発見しました。

現在も毎日数体の御遺体を発見しています。

2 発見された御遺体の身元を調べることも、警察の重要な仕事です。

水や電気が足りない中でも、御遺体の全身についた泥をわずかな水でていねいに洗い落とし、少ない照明の下で身元確認を行います。

3 身元がどうしても分からないときは、持ち物をインターネットで公開し、一人でも多くの身元が確認できるようにします。

【5】パトロールを強化しています（地域の安全・安心の確保）

家や店に人がいなくなった地域では、泥棒（どろぼう）が出ないように警察官がパトロールを行っています。

また、避難所や仮設住宅（かせつじゅうたく）にいる人の気持ちを少しでも楽にするため、警察官が様々な相談（そうだん）に対応しています。

1 被災地では、人のいない家に対する泥棒（空き巣（あ す））が増えているため、パトロールを強化しています。

住民の方には犯罪にあわないための呼びかけをしています。

2 警察官が避難所や仮設住宅を訪問し、避難している人々の心にひびく支援（しえん）を進めています。

3 被災地では、津波で流された多くの金庫（きんこ）が落とし物として警察に届けられています。

【6】警察は福島原子力発電所の周(まわ)りでも活動しています

1 原子力発電所の周りに住んでいる人を避難させました。

2 放射線から身を守りながら、行方が分からない人を探しています。

3 発電所を冷(ひ)やすため、警察官が危険をかえりみず、初めて地上から放水(ほうすい)を行いました。

4 原子力発電所の周りには人が全く住んでいません。警察は、泥棒を防ぐため、地域のパトロールを強化しています。

5 関係者以外の人が入らないようにするため、警察は立入(たちい)りする人を毎回チェックしています（検問(けんもん)）。

住民の方々が一時的に立ち入るときには警察官も一緒に行動します。

警察にも大きな被害が発生しました

数多くの警察官が亡くなったり行方が分からなくなったりしています。これらの警察官は、パトカーで住民に避難を呼びかけている間に津波におそわれており、最後の瞬間(しゅんかん)まで警察官としての責(せき)任(にん)を果たし、命を落としました。

また、津波によって、警察署や交番などの建物や、パトカーやヘリコプターなどの乗り物も大きな被害を受けました。

警察官の被害

- 死　　者：　25人
  （管区1人、岩手9人、宮城11人、福島4人）
- 行方不明：　5人
  （岩手2人、宮城2人、福島1人）

建物の被害

- 警察署：　58か所
  （岩手14か所、宮城24か所、福島20か所）
- 交番・駐在所(ちゅうざいしょ)：　234か所
  （岩手56か所、宮城121か所、福島57か所）

大船渡(おおふなと)警察署高田幹部交番

乗り物の被害